

and Social Memory. London: Routledge Curzon, 231-242.

NRC 2006. *Report of the National Reconciliation Commission (NRC), Overcoming Violence Through the Power of Reconciliation: Executive Summary*, Bangkok: The National Reconciliation Commission.

Ratchabandittaya Sathan 1982. *Photananukrom chabap ratchabandittaya sathan*, Bangkok: Samnak-phim aksorncareontat.

Sathaban Thaksinhadisu'ksa, Sinakarinvitrot University 1982. *Photananukrom phasa thin tai*, Bangkok: Krungsayam Kanphim.

Strathern, Marilyn 1992. 'Parts and wholes: refiguring relationships in a post-plural world', in A. Kuper (ed.), *Conceptualizing Society*. London: Routledge.

Supara Janchitah 2008. *Violence in the Misi: In the Name of Justice*. Bangkok: Kobfai Publishing Project.

Surin Pitsuwan 1985. *Islam and Malay Nationalism*. A

Case Study of the Malay-Muslims of Southern Thailand. Thai Khadi Research Institute, Thammasat University.

Suhpep Soonhorapasuch 1977. *Islamic Identity in Chiangmai City: A Historical and Structural Comparison of Two Communities*. Ph. D. thesis: University of California

Tambiah, S. J. 1970. *Buddhism and the Spirit Cults in North-east Thailand*. Cambridge: Cambridge University Press.

Tanabe Shigeharu 1991. 'Spirits, Power and the Discourse of Female Gender' in Manas C. and A. Turton (eds.), *Thai Construction of Knowledge*. London: SOAS, University of London: 183-212.

Turton, Andrew 1972. 'Matrilineal Descent Groups and Spirit Cults of the Thai-Yuan in Northern Thailand', *Journal of the Siam Society* 60 (2): 217-256.

Winzeler, R. 1985. *Ethnic Relations in Kelantan*. Singapore: Oxford University Press.

特集 変革期のアジアと宗教

インドの宗教・社会統合・ジェンダー ——ダリット女性の解放運動の視座から

やました あきこ
山下明子

はじめに

夕開のせまる頃に、インドの農村部から近隣の都市へと車で移動すると、街道沿いの田舎の町々に、おびただしい数の男たちが電灯の明かりに浮かび上がってくる。慣れない人なら、今日は男性だけの特別な祭日かと考えてしまうだろう。路上にも店の中にも瘦せたルンギ姿の男たちが群れをなし、時には政治家や田舎の名上のお決まりの白いクルターとドーティ姿の固まりも見られる。自分の村ではカースト間のタブーである共食をけつしてしない男たちも、夜の混雑した店にはダリット(2)の男たちも交じって、チャイ(茶)やアルコールを楽しんでいる。

このような夜の酒の肴には、これまでダリット以外のカースト・ヒンドゥーにはタブーだった牛肉の消費も南インドでは増えている。

車に同乗していたNGOの女性が「あの男たちを皆、撃ち殺してやりたい思いにかられる」と言ったことがある。農村の女性は早朝から働きづめである。野良での仕事が終われば、薪取りや飼い葉集め、水汲み、家畜の世話、そして暗い中でも家族の夕食の準備をしなければならぬ。この間、男たちは村々から自転車や徒歩で街道沿いの町にやってくる。疲れた身体で家事をしながら、その日の労賃を夫の飲み代に使われ、拳げ句に喧嘩して暴力をふるわれるダリットの女たちの姿は、どのコロ

(3) ニーでも日常的である。

インドの市場開放政策が農村部にどのように影響しているかについてジェンダーの視点からみる時、このように田舎の貧しい男たちが、カーストも宗教もこえて、夕方から祭りのように町々に集っている様は象徴的だといえる。そこには男たちのフラストレーションもみえる。

かつて「インドの自治(4)(ヒンドゥー・スワラージ)」を説いたマハトマー・ガンディーは、「インドは農村にある」と言った。農民服を真似て白い手織綿布のカーデイーを作り、これを奨励したから、白いカーデイー服は都市エリートと農村をつなぎ、独立運動において多様なインド人を均質化して見せる役割を果たした。しかし、ガンディーが本場に農村の下層民、とくに女性たちの生活をわかっていたとは思えない。今日、昼間の農村でますます目立つのは、焼け付く太陽の下、カラフルなサリー姿で日雇い労働する女性たちである。

私は二〇数年来、南インドを中心に農村のダリット女性たちの運動と関わりをもちながら研究を続けている。本稿では、このダリット女性運動の視座から、今日のイ

ンドで強まっているヒンドゥー・ナショナリズムの背景、およびそれと競合しているさまざまな「社会統合」志向の政治的運動の内容を吟味しながら、そこにジェンダーがいかに組み込まれ、あるいは再編されているかを考察する。さらに、私のフィールドにおける農村ダリット女性たちの変化を具体的に吟味することで、インドの宗教と社会に起きるであろう変化を予測したい。

1 宗教化する政治

ヒンドゥー教は考古学的に知られているところで九〇〇年の歴史をもつとされるが、それはインド・アーリア人の宗教とアーリア人がインドに侵入する前から存在した非アーリア人の宗教やその他の宗教、またアーリア系がインド各地の土着の信仰を統合していく過程で生まれた反バラモンなどのさまざまな宗教思想や文化を包含したものととしてのヒンドゥー教である。インド人の宗教や思想が理不尽なカースト制度にもかかわらず不思議に魅力的であるのは、この深い統合力にあるといえる。これは単に多様性ということとは異なる。ただし、ヒンド

ゥー教にあたる英語の「ヒンドゥーイズム」は、インド人の生活様式とアーリア人のヴェーダ諸聖典を結びつけたイギリスによる造語といえる。これは二〇世紀になってインド人の間でも使われるようになったが、反英独立の民族運動において大衆を統合的に動員するためのシンボルにされた。

ヒンドゥー普遍主義者のガンディーは近代西洋の物質文明とは異なる「インド人の生活様式」による自律と自治を説いた。これが「ヒンドゥー・スワラージ」である。ガンディー自身はインド人にムスリムやクリスチャンなど他宗教の信徒も含めた。彼にとって「自治」とは、まず一人一人が自己を統御できることだからである。しかし、ロイがいみじくも指摘するように、「ヒンドゥー」や「ヒンドゥーイズム」という「魔法のランプ」が独立運動のなかでエリート・ナショナリストたちによって灯されてしまったのである。しかもヒンドゥーイズムが対イギリスにとどまらず、それまで共存してきたインドのイスラム教徒と衝突する生々しい概念になったことは、今日に続くヒンドゥー・ナショナリズムの問題である。

「民族奉仕団」(RSS: Rashtriya Swayamsevak Sangh) とその政治団体である「インド人民党」(BJP) ヒンドゥー聖職者の「世界ヒンドゥー協会」(VHP) やメディアをふくむ教育、労働組合、福祉分野など、サング・パリワール(「家族集団」と呼ばれる「民族奉仕団」傘下の多くの団体と組織が一九八〇年代から北インドを中心に勢力を伸ばしてきた。もとより一枚岩ではないが、このヒンドゥー・ナショナリズム運動に特徴的なことは、「ヒンドゥー」は宗教ではなく「インド人の生活様式」であるとして、自分たちの運動を狭義のヒンドゥー教と区別する点である。また、西欧型のセキュラリズムは政教分離の名のもとに「公」と「私」を分離するが、「ヒンドゥー」に基づく「ヒンドゥー・ネイション(7)(ラーション)」こそ「真のセキュラリズム」の国家であると

する。インド人民党はこの綱領によって一九九八年から二〇〇四年の六年間、政権与党となり、九〇年代からのインドの市場開放化政策をより進めた。しかし、二〇〇二年のグジャラート大暴動(8)でヒンドゥー・ナショナリストの